

お客さまへのメッセージ

執行役員 事業部長
近藤 俊次 (イノベーション事業部)

“お客さまに合った着こなし” をご支援します！

日頃より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

「デジタルの力をビジネスのカへ」という社のスローガンのもと、お客さまの“デジタルトランスフォーメーション(DX)”をご支援するため、私どもイノベーション事業部は発足しました。“DX”はデジタル技術を利用して、製品やサービス、ビジネスプロセスを変革し、新たな価値を創造することで競争優位の状況を作り出す取組みのことで、身近に実感できるようになりました。

「私が次に知りたいコト」は Google が知っており、「欲しいモノ」は Amazon が知っており、「つながりたいヒト」は Facebook が知っています。近い将来は、外出は自動運転の自動車に乗り、無人コンビニでレジ不要での買い物ができ、自宅からはAIマイクで注文すると、空中倉庫からドローンが素早く宅配するでしょう。

企業の皆さまは、この状況をチャンスととらえる方、危機感を覚える方と様々な動機から“DX”へ取組んでおられますが、重要なポイントが2点あると考えます。「①早いPDCAで前進する」と「②テクノロジーを上手に使いこなす」ということです。“DX”は、まだ真似できる絶対的なロールモデルがないので、戦略から実行までのPDCAサイクルを短く回すことが重要だと考えています。例えば、AIやIoTといった流行のテクノロジーを他社を真似て導入するだけでは高い効果は得られません。デザインしたビジネスをお客さま業務にいかにかにフィットさせるかが重要です。ブランド品を身に着けるよりも、TPOを考えたコーディネートにより、上手に着こなすことが大切なと同じだと思います。

お客さまの新たな取組みに関して、弊社にお声掛けいただく数は、昨年と比べて増えてまいりました。特に多いのは、製造現場での安全対策・作業効率化のためのIoT導入や各種オフィスにおける働き方改革のためのRPA(※)導入などです。これまで培ってきた製造業界等の業務ノウハウと最新テクノロジーの知見を活かし、お客さまに合った着こなしをするためのご支援をさせていただきます。

新たなチャレンジ・前進をする際には、ぜひお声かけください。

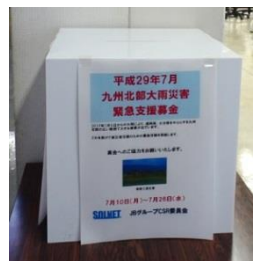


災害義援金の募金活動

◆「平成29年7月九州北部豪雨」被害へのご支援

このたびの九州北部での豪雨災害により、被害を受けられた皆さまに対し、心よりお見舞い申し上げます。

弊社では、被害を受けられた皆さまの復旧・復興に少しでも役立てていただきたいと、7月初旬より社内にて義援金を募り、8/1(火)に北九州市の義援金募金を通じて寄付いたしました。



◆ 勇壮な姿を再び！ 私たちは熊本城の復興を応援しています



5月に開催したギラヴァンツ北九州『(株)ソルネット50周年記念スペシャルマッチデー』にて、参加した社員とご家族、そしてJBグループ九州支店メンバーのみなさんに、大きく被害のあった熊本城の復興を応援すべく「熊本城災害復旧支援金」を募りました。集まった支援金は、当社役員と熊本出身の社員が代表し、8/18(金)に熊本市役所を訪問し、熊本市長（大西 一史様）に贈呈

いたしました。大西市長より、感謝状とともに、復旧に向けた力強いお言葉をいただきました。

【熊本出身社員の声】

震災後、初めて熊本城を見たのは、当日の応接室からの景色でした。

震災後に最初に帰省した時と同様、各種メディアで何度も見た景色でしたが、実際に目の当たりにすると胸が詰まります。そして、熊本城の存在がこれほどにも大きかったのかと改めて感じた瞬間でもありました。

時折強い余震が発生することもあり、復興には多くの苦労が伴うと思いますが、何らかの形でご支援を続けていきたいと思えます。

九州・地元企業として、被災された地域の日も早い復旧・復興をお祈り申し上げますとともに、これからも様々な支援活動を継続的に行ってまいります。

（事業管理）



社員会イベント

ナツだ、海響館へいこう！

気持ちのよい快晴となった8月26日(土)、社員の家族や協力会社の皆さん総勢80名で、社員会主催による夏イベントを開催しました。

海の生き物たちを得意気に説明してくれる“子供先生”や、気持ちよさそうに泳ぐアシカやペンギンに癒され、家族だけでなく仲間とも楽しく親睦を深めました。



※ホームページでも詳しくご紹介しております。ご覧ください。

働き方改革の救世主『RPA』のご紹介



「人が行う定型業務をロボットが代行」「ロボットで自動化、生産性アップ」
ここで登場するロボットとは、RPA - ロボティック・プロセス・オートメーション
と呼ばれる、業務を自動化をしてくれるソフトウェアのことです。今回はこの『RPA』が、
なぜ今注目を集めているのかについてご紹介いたします。

■ RPAの背景

RPAが注目されている背景には『働き手の不足』と『働き方改革の推進』があります。これらによって企業は『限られた人材と時間の中での生産性向上』を求められるようになりました。このような流れの中で人に代わる新たな働き手として、今まさにRPAの注目が高まっています。

■ RPAの特徴

RPAが目指すのは『人が普段行っている動作を再現』することです。
RPAの自動化は、①業務のルール化、②手順の教育(開発)、③業務の実施というステップで進んでいきます。

①業務のルール化

- ・ RPAで実行する業務を特定
- ・ 手順の整理、ルール化

②手順の教育(開発)

- ・ 手順に沿って業務を実施
- ・ RPAで業務の操作を記録

③業務の実施

- ・ 記録した内容をRPAが再現
- ・ 24時間休みなしで稼働

①ルール化ステップでは、自動化の範囲を決め手順を整理します。

ここで整理した手順を設計書として後のステップで使用するので、
“**普段の業務の流れをそのまま活用**” できます。

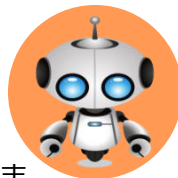
②教育ステップは、自動化を実装する部分ですが、多くのRPAツール

では画面上の操作を記録、再生してくれる機能を持っています。これにより比較的簡単にかつ、“**短時間で自動化を実現**” することができます。

③実施ステップに進むと、実際の業務で動作させます。この際RPAは、“**一度教えた動作を**

正確に繰り返し行う” ことができます。必要なら24時間休まず動かすことも可能です。

この様に、人の行っていた作業をそのままの形で自動化、効率化できますが、一方で、
RPAの能力を最大限に引き出すためには、専門的な知識と導入サポートが必要です。



■ 弊社の取り組み

- これまでRPA製品の比較検討～自社業務への適用を推進し、ノウハウを蓄積してまいりました。他にもAI技術を組み合わせたRPAソリューションの検証・実証も行っています。
- また、今年度は非常に多くのお問い合わせをいただき、トライアルや実導入を進めています。導入の各フェーズに合わせて、業務コンサルティング、導入支援、ロボット派遣などのさまざまなサービスを準備しておりますので、まずは、お気軽にお声掛け下さい。



(イノベーション事業部 古野 太一)

改めまして、ソルネットです。

「ソルネットさんに、何をお願いできるのかわからなくて。」
お客さまとの会話で、一瞬言葉を失ってしまいました。そのお客さまは一週間前に初めてご訪問したばかりで、弊社の会社概要やサービス内容については、そのときご説明していたので、ご理解いただけているとばかり思っていたのです。

思えば確かに、弊社の紹介には毎回苦労しています。詳しくお伝えしようがんばりすぎて専門用語を多用してしまったり、逆に簡潔にお伝えしようと、「IT全般です」と端折りすぎてしまったりすることもあります。今回も適切なご説明ができなかったことで、お客さまを困らせてしまったことに気づき、深く反省しました。

ソルネットとはどういう会社なのか。改めて考えれば考えるほど、いつかの会議室で熱く議論している風景や、懐かしいメンバーひとり一人の顔が思い浮かんできます。それはつまり、会社というものは実は形があるものではなく、そこで働く社員ひとり一人が手塩にかけた仕事のひとつひとつであり、関係した人々の記憶の中に、少しずつ積み上げられていくものだからなのかも知れません。

「株式会社ソルネットです。」

入社以来、数え切れないくらい口にしてきたこの言葉ですが、50周年を迎えるにあたり、たくさんの人の手で、長い時間をかけて大切に作られてきた、その意味と重さを強く感じています。そして、これからは自分たちの言葉で、ソルネットの「今」と「未来」を切り取って、お会いするみなさんにお伝えしていきたいと思います。

(Y.Nishino)

編集後記

社員会イベントで久しぶりに水族館に行きました。海の生き物では、ウミウシやクラゲが好きで、水槽一つ一つを見ていましたが、フグの展示が多いこと、多いこと！ たくさんの種類のフグをみながら、その可愛らしさと、下関という土地ならではの展示内容に楽しませてもらいました。九州・沖縄には水族館が11館もあります。各ご当地押しの展示を見に行くのもよいですね。(K.K.)

